

入選

河井 美雨 (かわい みう) 由井第一小 5 年生

作品名:「ちなつのハワイ」を読んで

図 書:ちなつのハワイ

私がこの本を読んだきっかけは、夏休み中に図書館で見つけて「ハワイ」という言葉にひかれたからです。主人公のちなつが自分と同じ五年生だったのも選んだ理由の一つです。

このお話は、夏休みに受験生のお兄ちゃん、けんかばかりしている両親とハワイに行くことから始まります。でも、みんなどこかぎくしゃくしています。ハワイに来てもお父さんは仕事に行ってしまったたり、お兄ちゃんは部屋で勉強ばかりしていて、お母さんもそれが気になって楽しめません。たいくつしていたちなつの前に日本にいるはずの管沢のおばあちゃんが現れます。しかし、おばあちゃんはちなつにしか見えないのです。

私はせっかく家族でハワイに来たのにみんながばらばらに過ごしていて、つまらないと思いました。私だったら妹とプールに入ったり、美味しいものを食べて楽しく過ごしたいです。そんなことを考えられるのは、家族の仲が良く幸せだからだと思います。

おばあちゃんは日本では、たおれてしまっていてたましいだけハワイに来ました。ちなつの家族が心配だったからだと思います。昔芸者さんをしていて、明るくて優しいおばあちゃんです。お父さんが子供のころのことや本当はお母さんが泳ぎが得意なことを教えてもらいます。お兄ちゃんもおばあちゃんの気配だけ感じるようになります。優等生キャラのお兄ちゃんが勉強を休んでちなつとプールに入ったり、お父さんに本当の気持ちを伝えて大げんかをしました。少しハラハラしたけど、これがきっかけで家族のきよりが縮まったように感じました。

私が気に入った場面は泳ぐのをいやがっていたお母さんがプールでクロールをするところです。きれいで速く泳いだので、気が付いたら大勢の観客が集まっています。泳ぎ終わると歓声があわいて、みんなの拍手がプールじゅうにひびきわたります。

「マハロ！」これはハワイ語で「ありがとう」という意味です。泳ぎを見ていた人たちがお母さんに「マハロ！」と声をかけます。とても優しい気持ちになりました。

この後、それを見ていたおばあちゃんはハワイの空へと消えていってしまいます。おばあちゃんの「マハロ」という声がちなつを満たします。ちなつだけではなく、みんなマハロで満たされているようでした。

家族のために一生けん命仕事をして笑顔を忘れてしまったお父さん、家族のことばかりでいつもイライラしているお母さん、勉強ができるキャラで本心を言えないお兄ちゃん。おたがいのことを思っているのに相手に伝わらないのは、悲しいと思いました。私はこの本を読んで「マハロ」ありがとうをきちんと相手に伝えることが大切だと思いました。